

文部科学大臣
萩生田 光一 様

2019年11月19日
新日本婦人の会
会長 米山 淳子

2020年度予算編成にあたって、
少人数学級の実現と「全国学力テスト」中止で
子どもたち一人ひとりにゆきとどくいた教育の実現を求めます

新日本婦人の会は、創立以来57年間、くらしと平和、子どものしあわせ、女性の地位向上をめざして、草の根から運動を広げるとともに、国連NGOの女性団体として世界の女性との交流・連帯をすすめています。

私たちは1980年から毎年、「軍事費を削って、暮らし・福祉・教育の充実を」と、女性・国民の願いを反映した国の予算を求めて、「秋の行動」にとりこんでいます。

いま、学校現場はとても過酷です。全国いっせい学力テストやそれに伴う自治体独自の学力テストの実施と結果の公表が、点数獲得競争に子どもや教職員を駆り立て、苦しめています。道徳の教科化、小学校から外国語教育の実施などで授業時間が増え、「休み時間の短縮」「給食は15分間で」「黙食、黙掃」など、子どもも教員も時間に追われています。

そんな中、学校に行けない「不登校」の子どもたちは14万人を超え、過去最高になりました。今年2月には、国連子どもの権利委員会から「あまりにも競争主義的な制度を含むストレスフルな学校環境から子どもを解放する」措置をとるよう日本に勧告が出されています。

教育費予算の増額で先生をふやし、少人数学級を実施し、子ども一人ひとりに寄り添えるよう舵をきるべきです。「あまりにも競争主義的な状況」を打開するため、2020年度予算案の審議にあたり、OECD加盟国並みの教育予算の増額を求め、以下要請します。

記

- 1、 国の責任で小学校、中学校の30人以下学級を実施し、正規の教職員を増やすこと
- 1、 全国いっせい学力テストをただちに中止し、せめて抽出方式に戻すこと
- 1、 大学入試の英語民間試験は中止し、民間の利益のための「大学入試改革」をやめ、抜本的な見直しをおこなうこと